

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 11月 4日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3490200684		
法人名	株式会社 エポカケアサービス		
事業所名	グループホーム 千田・みどりの家		
所在地	広島市中区南千田東町4番32号 (電話) 082-236-7270		
自己評価作成日	令和4年10月10日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490200684-00&amp;ServiceCd=320">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kihon=true&amp;JigyosyoCd=3490200684-00&amp;ServiceCd=320</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 4年 11月 4日 (金)

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

理念である「ゆっくり いっしょに たのしく」を念頭に置き、「現在（いま）」を大切に、やりたい事、笑える事が沢山あるよう日々関わりを持っています。日常生活では、毎日散歩に出かけることで季節を感じていただき、メリハリをつけ気分転換を行ない、地域の方との交流も大切にしています。（コロナ禍での制限はありますが。）また、排泄・入浴も個別に対応し個々の持っている力をしっかりと無理なく使っていただき気持ち良く生活していただけるよう支援しています。最期までその人らしくいつまでもあたりまえの生活をしていただけることを願って日々取り組んでいます。そして人生の最期を楽しく終えていただけるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

法人としての基本方針「ゆっくり いっしょに たのしく」を、管理者をはじめ職員が理解をし、日々の運営に活かしている。街中の利点として、周辺には中学校、高等学校、幼稚園、美容専門学校、スポーツセンター、コンビニエンスストア、スーパー等があり、恵まれた環境に位置している。現状コロナ禍で、地域交流が希薄になっているが、行動制限や家族との面会制限が続く中、近くを流れる京橋川の土手や、公園への散歩が、利用者にとって日常の変化をもたらし、息抜きとなっている。また、屋上には、花壇、菜園も出来る事から、日光浴を含め「遊びのスペース」を確保している。法人本部の理念、方針に基づき、管理者の前向きな姿勢、明るさ、心配りが見て取れる。職員も働きやすい環境に感謝し、それが利用者への介助に活かされているグループホームです。

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事業所理念の「ゆっくり、いっしょに、たのしく」はフロアの目につく場所に掲示しておりいつでも職員が振り返れるようになっている。また、個人目標として設定している職員も多い。	基本方針の「ゆっくり いっしょに たのしく」を念頭におき、入口、及びフロアに掲示され、理念を含め職員は出勤時に目を通している。全体会議では、職員と共にケア目標、個人目標を設定し日々の業務に活かしている。	職員の勤務はシフト制であり、個別に行うしか無いが、基本方針の唱和を実施する事で、職員間の意思統一にも繋がりが、原点回帰する意味でも、実施される事を期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している。	コロナ禍で地域との交流はなかなか難しい状況ですが、日常的には散歩に出かけることで地域の方に挨拶をしている。	現状コロナ禍であり、地域との交流は出来ていない。地域の行事の中で、とんど、いのこ、秋祭りに参加していたが、中止になっている。また、家族との面会制限も続いており、散歩は継続して実施している事から、地域の方とのふれあいは最小限実施している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	千田小学校より、地域の110番の役割を担っている。父兄の方へ施設を知って頂く機会となっている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	参加者にはご家族や町内会長、老人会長、民生委員はもとより、消防署、警察署、千田小学校校長、セブンイレブン店長にも委員になっていただき参加してもらい専門的な立場からも助言をもらっている。今年度は、コロナ禍のため開催は出来ておらず、文章のみの報告となっている。	コロナ禍で開催出来ていないが、職員で書面開催し、各運営推進委員には、書面にて報告し、行政へも提出している。開催時には、6名の参加者があり、それぞれの専門的な助言から、サービス向上に活かしている。11月は、24日(第4木曜日)に開催を予定している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	分からないことがあれば連絡して聞くようにしている。また運営推進会議に広島市事業者指導係の担当者にも案内を送り、意見交換が出来る場を作っている。	不明な点があれば直接出向いたり、電話で市担当者へお聞きしている。地域包括支援センター主催の研修は参加出来ていないが、市からも研修の案内メールを頂き、情報交換している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束について年に2回勉強会を開催し理解に努めている。フロアの扉も施錠しない支援を行い、その上で安全なケアの方法を職員間で話し合い実施している。	職員は、内部研修で身体拘束について研修を受け、虐待も含めて抑制や拘束の無いケアに務めている。身体的拘束適正化委員会は、定期的(3ヶ月に1回)に開催しており、職員間で正しく理解する事を話し合い、身体拘束の無いケアに取り組んでいる。1階玄関ドアは、施錠しているが、2階、3階の出入口については、開放している。スピーチロックについては、気になる場合は、職員間で注意し合ったり、管理者が指導している。玄関は施錠せず、外出したい利用者があれば職員と一緒に出かけている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている。	虐待防止について年に2回勉強会を開催し職員が学ぶ機会を設けている。また入浴時には身体状況を確認、職員間で共有し変化に早く気付く体制作りをしている。毎月のフロア会議にても身体拘束等が無いことを確認しあっている。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	権利擁護について年に2回勉強会を開催し、職員が学ぶ機会を設けている。利用者の周辺状況が変わった際に、家族へ向け成年後見制度やかけはしの情報を提供し選択肢の一つにしている。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書や重要事項説明書を読み合わせながら説明を行っている。不安がないよう、疑問点はその場で返答するようにしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	玄関に意見ボックスを設置しいつでも書いてもらえるようにしている。また、利用者、家族と密に連絡を取り合い職員に意見を言ってもらえる関係を築けるよう努めている。頂いた意見はミーティングの場で共有し、運営に反映している。	コロナ禍で面会制限をしており、事前予約にて(2組/日、15分)、居室での面会を許可している。遠方の家族には、オンラインで実施し、急ぎの案件があれば電話で対応している。意見・要望については、ミーティングで検討し、運営に活かしている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年に1回以上は代表者、管理者との面談の場を設け職員の意見を聞いている。またフロアミーティングや全体ミーティングの場でも意見や提案を聞いている。	管理者は、代表者、課長と面談し、フロアリーダー、職員の意見を汲み取っている。現場での管理者とリーダーの関係は良好で、他の職員からの意見・提案も共有し、日々の業務に反映している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回自己評価シートを記入し代表者が職員一人一人の状況を把握している。それを基に面談を行い話を聞き、向上心を持って働ける環境作りをしている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	月に1回テーマを設け職員間で勉強会を開催している。また外部研修の案内は職員にアナウンスし希望者は受講できるよう勤務調整している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	近隣のグループホームと意見交換を行ってスキルアップに繋げていたが、コロナ禍で取り組みは中止となっている。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居前には本人や家族より生活歴を聞き取りを行っている。また、普段の何気ない会話の中からも不安や要望を汲み取るよう努めている。職員間で共有し、本人の安心確保の材料となっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に家族からも要望や不安を聞いている。また、ホームでの本人の様子を電話報告し、家族の話聞いて信頼関係構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ホーム入居までに何度か本人や家族、関係者と面談し状況把握している。その中で必要があれば他サービスの情報提供している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	施設理念を基に、利用者が常に主役であることを忘れず支援している。職員は常に共に生活をさせていただいているという気持ちを忘れずに支援するよう指導している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	面会に来られた際、また電話等で利用者の生活状況を報告している。家族からも要望を聞きご本人にとって必要な支援を共に考えている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	いつまでも希望される場所に外出出来るよう、普段より筋力低下防止に努めている。またこれまで住み慣れた地域へのお出かけもご家族の協力を得ながら行っている。	以前は、馴染みのお店や美容院等へ外出していたが、現在は家族との墓参りの外出は許可している。またドライブとして、自宅前まで実施しており、日常の変化を演出している。家族同伴で、かかりつけ医への送迎もあり、協力を得ている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者同士の人間関係を把握し、居心地の良い時間が過ごせるよう職員が見守っている。リビングでの席も必要に応じて変更し、良好な関係作りが出来る様、配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去されてからも家族から連絡があれば必要に応じて相談に乗ったり訪問することがある。退去された家族の方が定期的にボランティアで訪問してくださっていたが、コロナ禍で現在は来所されていないが今後機会があれば来所していただきたい。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の関わりの中で一人一人の意向や思いを把握するよう努め、ミーティングで話し合いケアプランに繋げている。家族とも話せる機会を作り意向や思いを聞き出している。	主に、家族から入居前の生活パターン(生活歴や趣味、特技、食事の好き嫌い)を入居時に聞き取りをして、思いの把握に努めている。入居後は、日常の会話から本人の意向や要望を聞き取り、支援している。把握が困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前は、本人や家族の面談や利用していた事業所や医療機関からの情報収集により生活歴や暮らし方等を把握するよう努めている。本人との関わりの中でも常に情報収集を行っており、職員間でそれを共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	生活日誌や申し送り日誌で日々の心身の状態等を把握できるよう努めている。状態の変化が生じた時は正確な状態把握ができるようカンファレンスを開催し、状態に合わせた支援の統一ができるように情報や支援の方針を共有している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	フロアミーティングでモニタリングを行い利用者の現状を把握、それと共に本人の思いや家族の意向、提携医の意見を参考に介護計画の作成にあたっている。	介護計画は、6ヶ月に1回見直しをしている。モニタリングは、フロア会議で実施し、短期、長期目標を継続して、進捗状況を確認し合っている。日々のケア記録、訪問看護、往診記録はiPadへ入力し、それらの意見も参考にしつつ、本人、家族の希望を聞き、介護計画を作成している。利用者の状態や家族の意向に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	フロアミーティングの際、一人一人のモニタリングを行い職員間で情報共有している。また、必要に応じて申し送りの欄に記載し、職員間で変更事項等の確認を行なっている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人の思いや家族の意向、状態を常に把握し他ユニットや、本社、他ホームや他施設の協力を仰ぎ、必要に応じて公の機関にも連絡や相談をし、新しいニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在はコロナ禍で、地域に出向くことや、ボランティアの来所もなく一緒に楽しむことがなかなか困難ではあるが、コロナが落ち着いたら再開していきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居者や家族に入居前に提携医の選択をしてもらっている。入居後も必要に応じ提携医と連携し適切な専門医の紹介をしている。月2回の往診、提携医とも常に連絡が取れる体制ができている。	かかりつけ医は、月2回の往診があり、希望によるが歯科も月1回の往診が可能。他科受診は、家族で対応しているが、無理な場合は職員で対応している。24時間体制で連携が取れており、利用者は安心して生活出来る環境にあり、適切な医療が受けられるように支援している。	

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と常に連絡が取れる体制があり、入居者について気になることや変化があれば看護師に伝え、必要があれば指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、お見舞いに行き状況の把握を行っていたが、コロナ禍で今は出来ない状況である。退院時のカンファレンスには可能であれば参加している。参加できない場合は電話にて状況把握を行なっている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	終末期に入ると看取りの同意書及び看取りについての指針をご家族に提示し、ホームでの看取りの方針を伝えている。事業所のできることを提示しケアの方針を主治医や専門職も交えて話し合いの場を作り、ご本人・ご家族の希望に添ったケアを行う。	入居時に「看取りに関する指針」に基づき、説明をし、看取りについてのアンケートを取り、重度化した場合、医師、家族、職員の間で十分話し合い、確認している。看取りの時期には、職員間でミーティングをし、病態、状況を確認し共通認識で対応する体制が取れていることから、家族も安心して任される環境である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網を作成し、緊急の際には連絡を徹底している。実践力を身につけるためにも緊急時対応の勉強会を開催している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回消防署立会いの下、避難訓練、消火訓練を行っている。また防火管理者による定期的な消防点検もを行い、地域マップ等も周知している。	年2回の実施の内、1回は消防署立ち会い、1回は夜間を想定した訓練を利用者も参加して実施している。又、水消火器も使用し、通報訓練、避難訓練、避難経路、防災機器の使い方等の確認をしている。	コロナ禍であるがゆえ、地域との繋がりが大事と考え、運営推進会議や近所の方への、避難訓練への参加のお声かけ、応援をお願いされる事を期待します。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	個別情報については鍵付きの書棚に保管し、情報破棄にはシュレッダーを使用している。職員は利用者に対し尊厳に配慮した話し方や、排せつの介助時羞恥心に配慮した声掛けを行っている。	個人情報の取扱いには、全職員は十分に配慮し、日常生活において、利用者への尊厳に配慮した言葉遣い、動作等、いわゆる接遇についての話し合い、研修を実施している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	信頼関係の構築を行うことで、気軽に話して頂ける関係を作る。また、しっかりと寄り添い話を傾聴する姿勢を大切に行う。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	行きたい場所、やりたいことを普段の何気ない会話から聞けるように心掛けている。お一人お一人の希望が少しでも叶えてさしあげるよう無理の無いように支援している。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	行きつけの美容院へ出かけていただいているが、今はコロナ禍で中止としている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けには、彩りよく見た目にも美味しく感じていただけるよう配慮している。	ご飯とみそ汁は、施設内で調理しているが、おかずについては配食業者から仕入れ、湯せんで提供している。コロナ前は、行事では別メニューも提供したり、花見は弁当をとって家族で実施していた。また、屋上でランチバイキングを実施した事もあった。おやつ作りでは、ホットケーキ、わらび餅、団子が好評だった。食べやすいように形態(キザミ、トロミ、ミキサー等)の対応をして提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	個別に食事の盛り付ける量を調整している。誤嚥の危険性がある方には、とろみをつけたり、固形のゼリーに変え水分補給をして頂いている。また、水分摂取が少ない方にはこまめに飲み物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後入居者様全員必ず口腔ケアを実施している。出来るところはご自分でしていただき出来ないところを手伝うようにしている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	排泄表に記入することで時間把握をし、定期的に声掛けにてトイレで排泄ができるよう誘導している。パットを汚されることなくトイレで排泄できることを目標にしている。排便についてはその都度確認を行い、カウントをし、必要であれば下剤を服用してもらう。	職員は、排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、管理しており、個別に日々の状況を確認している。プライバシーに配慮したお声がけをし、トイレへ誘導し、トイレでの排泄を支援している。適切な間隔で排便出来る様に、主治医の指示のもと下剤を服用して頂く場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排便間隔を把握し、牛乳やオリゴ糖の入った飲み物を提供したり、散歩や室内での体操を通し、身体をしっかり動かして頂いている。便秘気味の方には腹部のマッサージを実施している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	ほぼ毎日お風呂は準備している。なるべく利用者様の希望に沿った時間に入浴していただけるように心がけている。	毎日沸かしており、希望者は毎日でも入浴可能である。最低でも、週2～3日を目標としているが、お声がけ誘導はするが、無理強いはない。また、入浴剤は好き嫌いがある(色の変化に抵抗ある方もいる)。体調により、シャワー浴、清拭、足浴の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	午睡は個々の希望により、自由に休んでいただいている。夜間の良眠の為、日中の活動量を出来るだけ増やすよう心がけている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	個別のお薬情報ファイルを作成いつでもスタッフが確認できるようにしている。頓服薬等定期薬以外のお薬についてはいつまで服用するのか申し送りノートに記載し周知している。いつでも医師、看護師、薬剤師と連携し報告、相談できる体制である。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	一人一人の生活歴を把握し、出来ること、お好きなことを取り入れ日々の生活の中で楽しんで頂けるよう支援している。歌がお好きな方へはDVDを見ていただいたり仕事が好きな方へは手伝いをしていただいたりと無理のない範囲で行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナの状況が落ち着いてきたら、外出支援を再会していきたい。	コロナ禍で、例年実施している外出支援が出来ていない。以前は、スーパー、コンビニでの買い物、初詣、花見、もみじ狩り、外食等、利用者に喜んでいただける支援をしていた。去年は、広島城周辺をドライブしたが、今年は近隣の千田公園、土手への散歩している。屋上には、花や野菜(キュウリ・オクラ等)を作っており、水やりや収穫を楽しみ、外気浴・日光浴を実施している。利用者の希望と気分転換を兼ねている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金のホーム管理はしていないが希望の物を購入できるように立替支払いを行っている。所持することにより安心感がある方についてはご家族様にも承諾していただきご本人に所持してもらっている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙は年賀状、暑中お見舞いをはじめなるべく本人直筆の物を出すようにしている。電話は職員が取り次ぎ家族と本人が話出来るよう支援している。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	常に季節感を感じれるよう毎月壁画等をご利用者として作成している。	リビング兼食堂は、自然光が差し込んで明るく、テーブル、テレビ、席の模様替えを定期的に行い、利用者に変化をもたらし、居心地の良い空間作りを支援している。季節を感じるように、壁面にはさくら、藤、ぬりえ、クリスマス、書初め等で飾りつけを掲示している。厨房からはご飯の炊ける匂いや食器の準備の音がして、生活感を感じる事が出来る。室内の温度や湿度、換気、清潔に配慮し、定期的に消毒をして、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	気の合うご利用者同士で座っていただいたき話が出来ようリビングでの席の配慮を行い、場合によっては席の変更をしたりとその日その日で細やかに配慮を行っている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使用していたものを持ってきて頂き居心地よく落ち着いて生活できるよう環境を整えている。家族の写真や利用者の作品を飾り、それぞれの方の特色が出るよう工夫している。	現状、こまめに換気を行っている。持参物は居心地よく生活出来るように、冷蔵庫、タンス、イス、衣装ケース、テーブル、化粧道具、テレビ、ラジカセ、写真等があり、自身での作成物を飾られ本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	居室の名札や、トイレの表示をわかりやすくすることで迷うことなく生活を送れるよう支援している。歩かれる導線には障害物が無いよう配慮している。		



自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	職員は全員、基本理念のゆっくり、いっしょに、たのしくを周知し家庭的で居心地の良い環境で入居者様に生活して頂けるよう支援している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	コロナ禍のため近隣の幼稚園と相互交流や、自治会の行事の参加を行い地域の方と交流はできていないが、近隣の公園に出かけていき近隣の方や顔なじみの方と交流をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	小学校区の子供110番の家の登録をした。PTAの方にグループホームのことを知ってもらおうきっかけになった。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービス状況や事故、苦情等包み隠さず報告し、ご意見、助言をいただいて質の向上に努めている。コロナ禍のため以前のように各方面からの参加者は減っている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議には案内を送り、議事録の発送を行い意見がもらえる、また質問が出来る場を作れるように心掛けている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	職員への意識づけとし、身体拘束について何かを常に意識し、職員とミーティングで話をする機会を常々持つようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	ケア向上委員会があり、ミーティングにて注意喚起を行っている。年1回虐待についてのホーム内研修を行っている。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	年2回権利擁護についてのホーム内研修を行っている。必要に応じて家族へ成年後見制度等の情報を提供している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約書、重要事項説明書等の説明の際には、利用者や家族に不明な点がないか確認の声掛けをしながら進め、理解を得ている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	日頃から面会時に些細なことでも言ってもらえるようなかわりを持ち、ご家族、外部の方の意見に耳を傾け運営に反映している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	全体ミーティングや管理者との面談、考課面談等から意見を吸い上げ、よりよい運営ができるよう心掛け、反映させていけるようにしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者との面談、考課面談、嘱託更新面談、日々の振り返りなどを通じて働きやすい職場となるよう意見交換は積極的におこなうようにしているが、現実的にはできていない。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	個人の目標を明確にし、それに向けて必要な研修に参加出来る取り組みは不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ禍のため近隣のグループホームと交換研修を行いお互いのスキル向上、運営推進会議への出席等の情報交換はできていない。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	初めての環境や人の中で生活する中で不安な気持ちに寄り添い、お気持ちを傾聴するようケアプランに入れて職員が意識して関わりを持ち、生活、環境、人に慣れるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	ご家族の要望、不安等をしっかりと聞き取り、不安の解消に努めている。収集した情報に基づきケアプランを作成し、ご家族に同意を頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ご本人、ご家族のニーズ喚起を行い、グループホームで出来る可能性を確認している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活の中で、洗濯物干しを職員と一緒にしていただいている。その際、		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	ご利用者が望まれることをご家族に伝えるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	家族、友人、知人等にいつでも気軽に訪ねて頂けるような環境作りを常に行っている。意思疎通が難しい場合はスタッフが立ち会い交流の仲介を行っている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者同士の関係をみて、同席の方々に助け合いの姿を見ることが他テーブルの方でも声を掛け合っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去されてからも、ご家族様から連絡があった際、必要に応じて相談に乗っている。また、散歩時に会ったときにはお話をさせていただいている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	ご本人の思いを尊重し、できるだけ実現できるように対応をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居前に関しては、ご本人様、ご家族様との面談、利用されていた事業所や医療機関から情報を収集し、生活歴、暮らし方を把握するように努めている。ご本人様との関りからも情報収集を行い、スタッフ間で情報共有を行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	iPodで日々の心身の状況等の把握が出来るようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティング時に入居者様の現状確認を行い、介護支援に反映させている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	iPodに毎日の様子、身体状況の変化、支援内容を記録。朝夕の申し送り時や、フロアごとの伝達ノートを活用してスタッフ間の情報共有の場とし、変化のある時には関係者に伝えている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ご本人様の思いや状態、ご家族の意向を把握し、他ユニットや本社、他ホームや他施設の協力を仰ぎ必要に応じて公の機関にも連絡や相談をし、新しいニーズに対応できるようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	コロナ禍のため地域との交流は希薄であるが、近隣の公園へ散歩へ行き地域の方と会話をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居後も必要や要望に応じ提携医と連携し、適切な専門医の紹介をしている。月曜～土曜に提携医の往診、看護師による24時間対応があり体調不良時には適切な対応、医療の支援が受けられるようにしている。また、提携医とも常に連絡が取れる体制が出来ている。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師と常に連絡が取れる体制があり、入居者様について気になる事や、変化があれば看護師に伝えがあれば指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	退院時、情報提供書をもらい、ホーム提携医と相談し安心してホームに戻ってもらえる体制を整えている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	ご家族、担当医、管理者と終末期のあり方について話し合いを行い要望に沿えるよう連携を行っている。またその要望を基にスタッフ間でチームケアを行えるようケアの統一を行い、状態の変化に応じて担当者会議を行い、チームケアに取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急連絡網作成し、緊急時の連絡は行なっている。各職員への応急手当への実践力不足がある。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年に2回、消防署立会いのもと、避難訓練、消火訓練を行っている。防火管理者による定期点検や非常用の水の確保をしている。地域マップ等も周知している。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様の尊厳を守るために自尊心に配慮した声掛けができるよう現在、職員へ勉強会を行なっている段階である。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者の意向を汲み取れるよう意識している。散歩への参加は体調も配慮しその方の気持ちで決めていただいている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ご本人様のペースで生活できるようお一人お一人にその時々合ったレクリエーションを工夫して提供している。また、身体がしんどい時は居室で過ごしていただいたり、ゆっくりと休んでいただいたりご本人様に合わせて支援している。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	2か月に1回、訪問美容に来て頂き、希望の髪形にカットしてもらっている。手作りのネックレスや娘様から頂いたネックレスを毎日つけておられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	また、気候が良い時には屋上で食事を摂っていただいたり、お弁当を作り食べていただいたりとお手伝いしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	栄養を考えて調理師、食事量の少ない方に対しては補助食品で補うようにしている。その日の水分量を一人一人把握し、脱水にならないよう水分補給を行い、ポカリゼリーも活用している。食事については栄養士が献立を立てた配食を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	食後には必ず口腔ケアを行っている。一人でできる方にはお任せし、一人では不十分な方に対しては最低限のお手伝いをし、一緒に口腔ケアをするように心がけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	パットへの排尿をできるだけ少なくするためトイレでの排泄を行なっている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	飲食物の工夫として朝食時、牛乳、ヨーグルトを摂取して頂き、オリゴ糖を使用し飲み物やゼリーを作っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	毎日入浴を行い、入浴の間隔が開かないように入浴して頂いている。お一人お一人ゆっくりと入っていただけるよう時間をしっかりと取っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	傾眠されている方へは声掛けをし臥床し休んでいただいている。日中も昼食後に居室にてゆっくりと休んでいただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	看護師、薬剤師とも連携をし、服薬の支援を行っている。いつでも相談や報告が出来る体制が出来ている。		

グループホーム 千田・みどりの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	お一人お一人の生活歴の把握に努め、好きなことを提供できるように努力している。毎日室内にいとストレスがたまってしまうので天気の良い日には散歩に出かける。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍で外出機械が減り対応が難しかった。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	所持金の管理はホームではしていないが、買い物は希望に添えるよう立替に行っている。また、所持することで安心して落ち着かれる方についてはご家族と相談の上、自己管理で所持してもら場合もある。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	家族に電話をかけて話したいと希望があればホームの電話で話をさせていただく。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	消毒や拭き掃除する等して居心地の良い空間を提供するように心がけている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	お茶やお好きなゲーム、塗り絵等を提供し退屈されないように努めている。居室でゆっくり過ごせたり、一人で集中して塗り絵等出来るように空調や照明等配慮している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	家で使用していたものを持ってきて頂き、居心地良く落ち着いて生活できるよう環境を整えている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	歩かれる場所には危ないものは置かないで目配りや気配りをして、出来るだけ長く自立した生活が送られるよう気を付けている。		

V アウトカム項目(2階)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない



グループホーム 千田・みどりの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

V アウトカム項目(3階)			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 千田・みどりの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム千田みどりの家

作成日 令和 4 年 11 月 5 日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害時や火災時には近隣の住民の方や地域の方への協力要請が不十分である。	地域の方と双方に助け合える関係性の構築	地域住民の方へ避難訓練に参加していただく	1年
2	23	個別ケアへの取り組みが不十分で、ご利用者様個々の思いを十分に汲み取れていない。	個別ケアの充実、実践	ご利用者の方と少しでも多くの話す機会を意図的に作り思いを聞き取り個別ケアへと繋げていく。	1年
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。